

令和4年度学校教育自己診断アンケートの分析

文責 首席 佐々木 哉司

1. 回答数と回答率

生徒の回答数 160(回答率 67.2%)、保護者の回答数 112(回答率 47.1%)、教職員の回答数 36(回答率 100%)であった。

肯定的回答とは回答 1（そう思う）・2（ややそう思う）の合計の数値（％）で、否定的回答とは回答 3（あまり思わない）・回答 4（思わない）の合計の数値（％）である。また、△は前年度と比べ増えている場合、▼は減っている場合であり、数値はそのポイント差を表す。

2. アンケート集計における傾向

昨年度のアンケート集計との比較をすると、生徒における全学年で肯定的回答のポイントが5ポイント以上の増加項目数が昨年度 20 項目中 19 あり、今年度もさらに 16 項目あった。さらに肯定的回答率が 60%以上のものが全学年で昨年度同様 15（△15）であり、特に 80%以上の項目も 11 項目（△4）あった。

3. 学校生活全般(生徒指導含む) — 生徒 1、2、13 保護者 10、11、12

生徒の肯定的回答が「1 学校に行くのが楽しい」80.1%(△5.4)と 8 割を超えたことは嬉しい限りである。また、「2 学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」も同様に 83.1%(△4.9)、「13 学校生活についての先生の指導には納得できる」が 77.5%(△5.5)と上昇していることは喜ばしいことである。だが、保護者の肯定的回答が「10 生徒指導面で、学校は家庭連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」70.5%(▼4.3)、「11 学校の生徒指導の方針に共感できる」67.8%(▼7.7)、「12 子供は学校に行くのを楽しみにしている」67.9%(▼3.5)と減少している点は逃がせない。

4. 授業について — 生徒 3～5、16 保護者 7、8

生徒の肯定的回答が「3 授業はわかりやすく楽しい」が 76.3%(△7.0)「5 学習の評価は、テストの得点と、提出物、授業の態度、出席状況など生徒の努力や授業に取り組む姿勢を含めて行われている」が 91.3%(△2.8)、「16 複数の先生が入った授業や少人数展開の授業はわかりやすい」87.6(△2.7)と昨年度ともに上昇しておりうれしい限りである。また、保護者の「7 子供は授業がわかりやすく楽しいといっている」が 64.3%(▼5.7)、「8 テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」が 82.1%（▼3.2）と同じく減少している。

しかし、依然として生徒の「4 家庭で宿題、復習、予習など学校の勉強をしている」は 48.7%(△10.5)とまだまだ低い数値であるが、2 年連続 10 ポイント以上上昇している。学習面での達成感や学習意欲向上への取組みによる変容まで到っていない現状があるので、教員は成果が反映され実現できるようにあきらめずに日々努力しなければならない。

5. 学校の基本姿勢 — 保護者 1～4

「1 学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的回答率は 74.1%(▼8.4)、「2 学校は教育情報について、提供の努力をしている」73.2%(▼6.5)、「3 学校は保護者の願いにこたえている」80.4%(△5.6)「4 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」は 83.0%(▼4.4)であり、より一層の対応を求められている。

6. 学校行事などについて ― 生徒 9、保護者 14

コロナ禍の影響で例年になく中止や制限付き実施に至っているため分析するには困難であるところではあるが分析すると、生徒の肯定的回答率が「9 文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事は、楽しく行えるように工夫されている」が 86.3% (△7.2) と増え、保護者においても「14 学校行事に子どもは積極的に参加している」は 81.3% (▼3.4) 高いポイントとなっている。また、教員の「20 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」は 83.3% (△7.4) と概ね成果があったと感じている。

7. 生徒会活動と部活動について ― 生徒 10～12、保護者 15～17

生徒の「10 生徒会活動に関心を持って積極的に参加している」の肯定的回答率が 56.9%(△12.9)、「11 学校は部活動が活発になるよう、積極的に取組んでいる」55.1%(△14.6)、「12 自分としては、部活動に積極的にでいる(取組んだ)」50.6%(△9.2)、とあり、保護者の「15 生徒会活動は活発である」56.3% (△4.6)、「16 部活動は活発である」37.5%(▼8.7)や「17 子供は部活動に積極的に取組んでいる(取組んでいた)」26.8%(▼5.4)などすべての項目において低い。生徒数の減少やコロナ禍が大きく影響していると思われる。

8. 人権尊重などの教育について ― 生徒 14、15、17 保護者 18～22

生徒の肯定的回答率が「14 学校や社会のルールについて学ぶ機会がある」91.9(△7.0)、「15 命の大切さや人権について学ぶ機会がある」96.3% (△6.1) と 6 年連続増加しており、人権教育の一定の成果と考える。だが、保護者の「18 学校は自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」62.5%(▼9.5)、「19 学校は、子どもに生命を大切に心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」72.4%(▼9.4)、「20 学校は子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている」69.7%(▼8.6)、「21 先生はすべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導している」69.6%(▼11.5) と減少しており生徒と保護者格差が気になるところである。今後保護者にも理解を得る方法を模索し一定の理解を得られるように取組んでいく。

プライバシーに関することにおいても生徒の「17 成績などの内容についてプライバシーが守られている」93.1%(▼1.6)、保護者の「22 学校では子どもに関する個人情報を守られている」86.6%(▼1.5)とあり、一定の成果が見られる。

9. その他 (いじめ関連含む) ― 生徒 19、20 保護者 27、28

・いじめ関連における項目では、生徒の「20 先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.8%(△7.5)、保護者の「28 学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」70.5%(△0.5)と上昇した。

・施設設備に関する項目において、生徒「19 学校の教室など施設・設備はよく整備されている」の肯定的回答率が各 77.6%(△11.3)、ある程度改善された観があるが保護者「学校の教室など施設・設備はよく整備されている」の 51.8%(▼13.9)と生徒とのギャップがあるので、これに満足せずより良い教育環境の確立を目指し、大阪府教育庁に要望を続ける。